

平成29年度病害虫発生予報第10号

長崎県病害虫防除所長

向こう1か月間における主な病害虫の発生動向は次のように予想されます。

農作物名	病害虫名	発生程度	
		現況	予想
きゅうり	べと病	並	並
	うどんこ病	やや多	やや多
	褐斑病	少	少
	菌核病	並	並
	灰色かび病	並	並
	ミナミキイロアザミウマ	やや少	やや少
	コナジラミ類	少	少
トマト	黄化葉巻病	並	並
	灰色かび病	並	並
	コナジラミ類	並	並
たまねぎ	白色疫病	並	並
	ネギアザミウマ	少	少
いちご (本圃)	うどんこ病	並	並
	灰色かび病	やや多	やや多
	アブラムシ類	並	並
	ハダニ類	多	多
ブロッコリー	黒腐病	やや多	やや多
	べと病	並	並
	コナガ	やや多	やや多

【発生予報】 本文の()内は平年値

きゅうり

1. べと病

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

1月前期の巡回調査(11筆)の結果、発病葉率は5.0%(1.3%)、発生圃場率は9.1%(27.0%)で、一部多発圃場が認められた。

2. うどんこ病

(1) 予報内容

発生程度 やや多

(2) 予報の根拠

1月前期の巡回調査(11筆)の結果、発病葉率は7.1%(2.7%)、発生圃場率は54.6%(43.1%)で、一部多発圃場が認められた。

(3) 防除上注意すべき事項

- ア 乾燥条件のほか、通風不良、窒素過多のとき発生が多いので、窒素の過用を避け、茎葉が過繁茂にならないように注意する。
- イ 薬剤耐性発達防止のため、同一系統の薬剤を連用しない。

3. 褐斑病

- (1) 予報内容
発生程度 少
- (2) 予報の根拠
1月前期の巡回調査(11筆)の結果、発生を認めなかった(発病葉率1.2%、発生圃場率16.0%)。

4. 菌核病

- (1) 予報内容
発生程度 並
- (2) 予報の根拠
1月前期の巡回調査(11筆)の結果、発生を認めなかった(発病果率0.0%、発生圃場率0.0%)。

5. 灰色かび病

- (1) 予報内容
発生程度 並
- (2) 予報の根拠
1月前期の巡回調査(11筆)の結果、発生を認めなかった(発生を認めない)。

6. ミナミキイロアザミウマ

- (1) 予報内容
発生程度 やや少
- (2) 予報の根拠
1月前期の巡回調査(11筆)の結果、寄生葉率は0.4%(0.8%)、発生圃場率は9.1%(20.5%)であった。

7. コナジラミ類

- (1) 予報内容
発生程度 少
- (2) 予報の根拠
1月前期の巡回調査(11筆)の結果、発生を認めなかった(寄生葉率1.0%、発生圃場率26.9%)。

トマト

1. 黄化葉巻病

- (1) 予報内容
発生程度 並
- (2) 予報の根拠
1月前期の巡回調査(11筆)の結果、発病株率は0.4%(0.3%)、発生圃場率は27.3%(21.9%)であった。

2. 灰色かび病

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

1月前期の巡回調査(11筆)の結果、果実および葉での発生を認めなかった(発病果率0.0%、過去4ヵ年 発病葉率0.4%、過去4ヵ年 発生圃場率20.8%)。

3. コナジラミ類

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

1月前期の巡回調査(11筆)の結果、寄生葉率は0.9%(過去7ヵ年 0.6%)、発生圃場率は36.4%(同 26.2%)であった。

たまねぎ

1. 白色疫病

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

1月前期の巡回調査(15筆)の結果、発生を認めなかった(発生株率0.0%、発生圃場率0.8%)。

2. ネギアザミウマ

(1) 予報内容

発生程度 少

(2) 予報の根拠

1月前期の巡回調査(15筆)の結果、寄生株率は1.9%(12.3%)、発生圃場率は13.0%(56.9%)であった。

いちご

1. うどんこ病

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

1月前期の巡回調査(26筆)の結果、発生を認めなかった(発病株率0.2%、発病果率0.0%、発生圃場率6.0%)。

2. 灰色かび病

(1) 予報内容

発生程度 やや多

(2) 予報の根拠

1月前期の巡回調査(26筆)の結果、発病果率は0.1%(0.1%)、発生圃場率は15.4%(7.9%)であった。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 夜間は暖房機を断続的に稼働し、曇雨天や気温が低い日もできるだけ換気を行うなど、ハウス内が多湿にならないような管理に努める。

イ 被害果等の発病部位は伝染源となるので、早期に取り除きハウス外へ持ち出して

適正に処分する。

ウ 過繁茂は果実周囲が多湿になりやすく発病を助長するので、肥培管理を適切にする。

エ 果実では、本病原菌はまず枯死した花卉や雌しべの柱頭に寄生・増殖した後、果肉に侵入する。そのため、「さちのか」に比べ花卉が落ちにくい「ゆめのか」では、咲き終わった花卉は極力除去する。

オ 予防的な薬剤防除に努める。曇雨天が続く場合はハウス内湿度が上がるのを防ぐため、くん煙剤を利用する。

カ 薬剤耐性発達防止のため、同一系統の薬剤を連用しない。

3. アブラムシ類

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

1月前期の巡回調査(26筆)の結果、寄生株率は0.8%(1.2%)、発生圃場率は11.5%(13.6%)であった。

4. ハダニ類

(1) 予報内容

発生程度 多

(2) 予報の根拠

1月前期の巡回調査(26筆)の結果、寄生株率は17.1%(4.4%)、発生圃場率は57.7%(38.8%)であった。

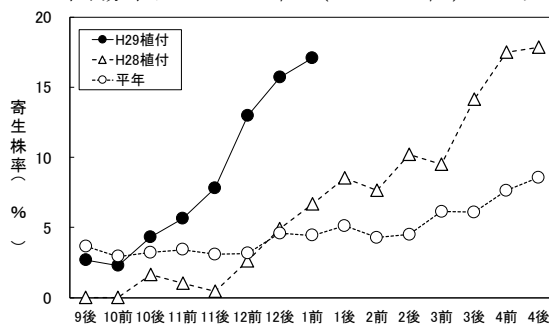


図1 いちご ハダニ類 寄生株率の推移
平年:H19~H28の平均値(最大・最小除く)

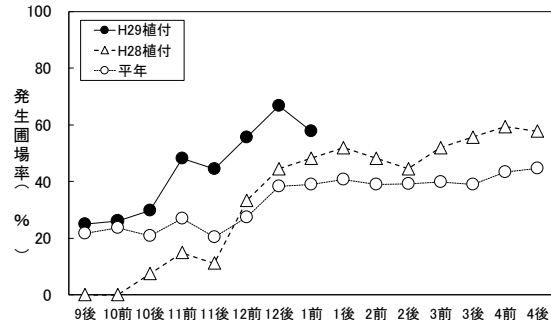


図2 いちご ハダニ類 発生圃場率の推移
平年:H19~H28の平均値(最大・最小除く)

(3) 防除上注意すべき事項

ア 下葉の裏に多く寄生するので、薬液が葉裏に十分かかるように丁寧に散布する。

特に「ゆめのか」は「さちのか」よりも茎葉が繁茂しやすいため、農薬が葉裏まで十分かかるように留意する。なお、古葉を摘葉後に防除すると効果的である。

イ 既に多発している圃場では、1回の薬剤散布のみでは薬剤の付着むら等で効果が不十分となる場合があるので、効果を確認しながら数回散布する。

ウ 薬剤感受性が低下しやすいので、系統の異なる薬剤をローテーション散布する。

エ 天敵(ミヤコカブリダニ、チリカブリダニ)を使用している圃場では、ハダニ類の発生状況に応じて天敵に影響の少ない薬剤を使用する。

ブロッコリー

1. 黒腐病

(1) 予報内容

発生程度 やや多

(2) 予報の根拠

1月前期の巡回調査(12筆)の結果、発病株率は13.5%(1.9%)、発生圃

場率は25.0%（14.1%）であり、一部多発圃場が認められた。

(3) 防除上注意すべき事項

- ア 多発すると防除が困難であるため、予防的に薬剤散布を行う。
- イ 降雨や強風の後にはできるだけ速やかに薬剤防除を行う。

2. ベと病

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

1月前期の巡回調査（12筆）の結果、発生を認めなかった（発病株率0.5%、発生圃場率2.3%）であった。

3. コナガ

(1) 予報内容

発生程度 やや多

(2) 予報の根拠

1月前期の巡回調査（12筆）の結果、寄生株率は4.3%（1.8%）、発生圃場率は50.0%（14.7%）であり、一部多発圃場が認められた。

(3) 防除上注意すべき事項

- ア 幼虫は齢が進むと薬剤の効果が低下するので、早期発見に努め若齢幼虫期に防除を行う。
- イ 薬剤感受性が低下しやすいので、異なる系統の薬剤をローテーション散布する。
なお、ジアミド系薬剤で効果が低い個体群が県内で確認されているため、殺虫効果の低下が疑われる場合は別系統の薬剤を散布する。
- ウ 今後定植する場合は、育苗トレイでの灌注や粒剤の株元処理等による防除を行う。
- エ 発生が多い圃場は、周辺圃場への発生源になるため、収穫終了後は残渣を速やかに処分する。

【参考】

気象

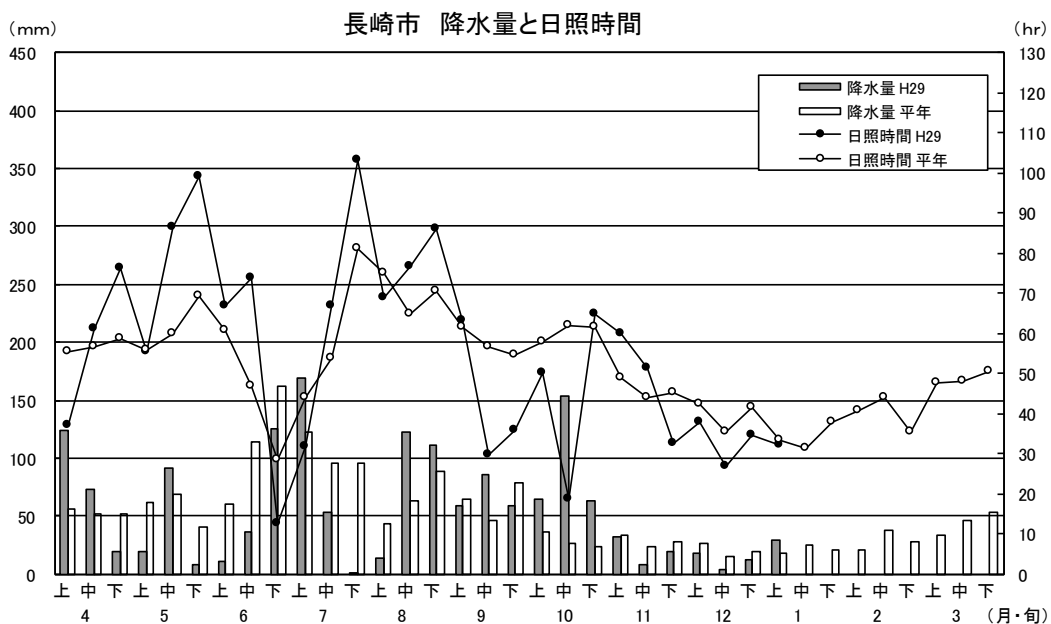
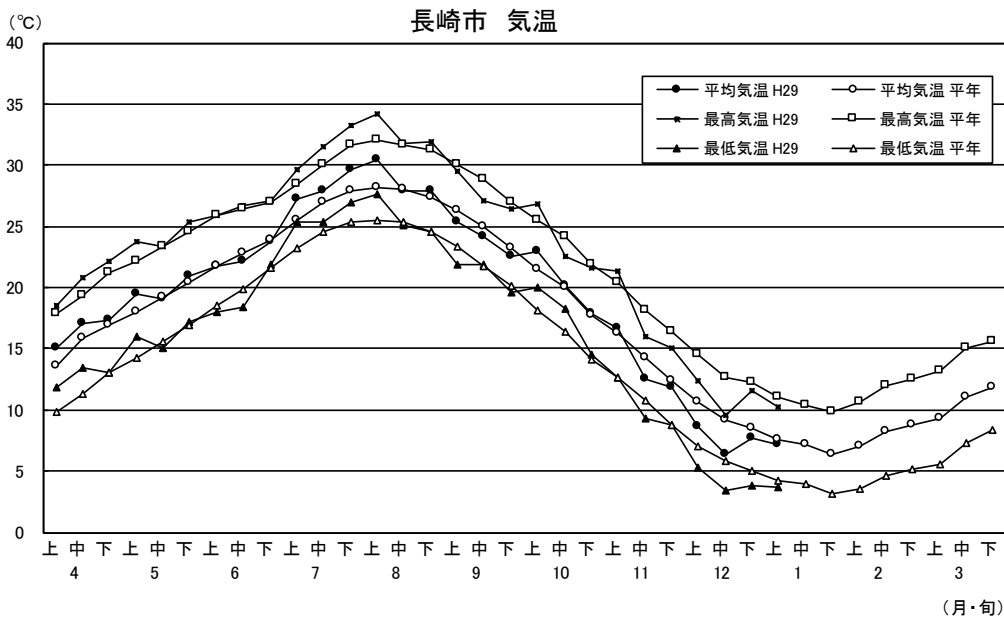
(平成30年1月11日発表 1か月予報 福岡管区気象台)

要素別確率

要素	低い (少ない)	平年並	高い (多い)
気温	30	40	30
降水量	20	40	40
日照時間	30	40	30

※予報対象地域：九州北部地域

平成29年度の気象経過（長崎地方気象台）



○長崎県病害虫防除所の発行する情報の入手は、インターネットをご利用ください。

「長崎県病害虫防除所ホームページ」 アドレス：<http://www.jpnpn.ne.jp/nagasaki/>

○この情報に関するお問い合わせは、電話でお願いします。

長崎県病害虫防除所 TEL：0957-26-0027

